



子供が学びをつくる 桐の子タイム

桐の子タイム（総合的な学習の時間）の 目指す「自らの学びをメタ認知」しながら学び続ける子供	
課題設定	<p>実社会や実生活に向き合い、理想状況を実現しようとしたり、課題を解決したりしようとする意識をもち課題を設定する。そして、課題追究のイメージをもつ。</p> <p>(1) 実社会や実生活に向き合い、理想状況を実現しようとしたり、課題を解決したりしようとする意識をもち課題を設定する。</p> <p>① 実社会や実生活に向き合いながら、問題状況を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実社会や実生活にある学習対象と出会う。 ・ 気づきや疑問を話し合ったり、体験活動や各教科等での学びをもとにしたりしながら、現実状況や自分との関わりについて整理する。 ・ これまでの学びや思い描く理想状況と現実状況とを比較しながら、問題を整理したり、明らかにしたりする。 <p>② 理想状況を実現したり現実状況の問題を解決したりするなど学ぶ目的を明確にもち、個人や全体の課題を設定し、ゴールイメージをもつ。</p> <p>(2) 理想状況の実現や課題解決、目的達成のために必要なことを考え、課題追究のイメージ（プロセスイメージ）をもつ。</p> <p>① 追究（蓄積も含め）やパフォーマンスの内容、方法、形態を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人と全体との課題のつながりを明確に（他者の課題も捉えながら）追究する。 ・ 学習の見通し・振り返りを行いながら課題解決に向かう。
課題追究	<p>課題を解決する際に、追究内容、追究方法、追究形態を選択し、自力追究する。そして、追究中に自己をモニタリングして、方法や視点を変えたり、焦点化したりする。</p> <p>(1) 課題を解決する為に、追究方法、追究形態を選択し、自力追究する。</p> <p>① 課題解決の追究方法の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (情報収集) 観察、実験、見学、調査、探索、追体験等 ・ (整理分析) どのような情報がどの程度収集されているかを把握し、図やグラフ、マップ、思考ツール等に整理しながら分析（比較・分類・関連付け…）していく。 <p>② 課題解決の追究形態の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人追究、ペア追究、グループ追究、全体での意見交流等 <p>(2) 追究中に、自らをモニタリングして、追究方法を変えたり、焦点化したりする。</p> <p>① 得られた情報や分析結果の交流・吟味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の入手先や入手経路、整理や分析した結果の妥当性の吟味 <p>② 課題追究の修正・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択した追究方法で足りない部分に気付いて量を増やしたり質を高めたり、限界に気付いて他の追究方法に変更したりする。
パフォーマンス	<p>追究したことをもとに、自己の概念を形成し、日常生活の場面や次の学びへ生かす。相手や目的に合わせて、既習の表現方法から選択して伝わりやすく構成して表現する。</p> <p>(1) 自己の考えを整理しながら概念を形成し、日常生活の場面や次の学びへ生かす。</p> <p>① 子供一人一人が、自分の言葉や図で整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートに文章で書く、キーワードを選ぶ、図で表す など <p>(2) 相手意識や目的意識を明確にして、既習の表現方法から選択して伝わりやすく構成して表現する。</p> <p>① 表現内容の吟味</p> <p>② 表現方法（形態）の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート、新聞、ポスターにまとめる。 ・ 写真やグラフ、図を使ってプレゼンテーションとして表現する。 ・ 絵、音楽、劇、ものづくりなど <p>③ 表現媒体の選択・工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現内容に応じた媒体の選択（紙、コンピュータ、自分の身体）

～自己を見つめ、学びの主体者となる子供～



目指す姿を実現する支援例

【子供が課題意識を高める学習対象との出会いの工夫】

- ・ 事前に子供の発達や興味・関心を把握し、これまでの子供の考えとの「ずれ」や「隔たり」、「憧れ」、「可能性」を感じさせるよう、他教科等も含めて社会、自然、人をイメージするような資料や話題提示をしたり、直接関わる体験活動を設定したりする。
- ・ 子供たちが他教科等も含めたこれまでの学びや自分の関わりを想起したり、自分たちの気づきや疑問、予想を交流したりするよう促し、理想状況やゴールイメージを共有し、必要感をもって学習に取り組むことができるよう支援する。

【子供が学習の見通しをもてるよう支援する】

- ・ 学習対象の理想状況の実現や課題の解決に向けて必要なことを子供と一緒に明らかにする。学習対象の性質や単元構成、子供の発達段階に応じて、あらかじめ計画するゴールやプロセスの範囲は変化するため、これまでの学びで、どのような課題、追究内容・方法・形態があったのか確認し、イメージを膨らませることができるようにする。

【子供の多様な追究内容、方法、形態を保障する】

- ・ 他教科等やこれまでの学びを生かして、設定した課題を追究するには、どのような方法が考えられ、ふさわしいと思うか判断できるようにする。どのような情報をどのような方法で収集し、どのように蓄積するのかなどの計画・準備をするよう促す。
- ・ 課題の難易や量から、個人かペア、グループか等を子供が判断することを保障する。その為に、学習経験を積み重ねられるようにする。追究結果を視覚的に捉えられるように掲示物等学習環境を工夫する。

【追究方法などを子供が適時判断し、調整するよう支援する】

- ・ 追究中に、自分の追究を振り返ることができるように、ペアやグループ、全体で交流したり、他者から話を聞いたりする活動を必要に応じて設定する。
- ・ 得られた情報の価値に気付いたり、整理分析を通して考えを形成したりすることができるよう、教師と一緒に考えたり、問いかけたり、板書に位置付けたりする。

【子供が概念を形成し、自己の生き方を考え続けることができるよう支援する】

- ・ 継続的に考えを表出するように振り返りシートを工夫する。教師は考えの根拠を問いかけたり、協働的な学び合いの場を設定したりして、子供が繰り返し考え、思考を整理できるようにする。

【自力追究結果を子供が表現できるよう支援する】

- ・ 理想状況の実現や課題解決に向けた追究の過程や結果を他者に伝えるために、表現する内容や方法を子供が自ら考えるよう促す。
- ・ コンピュータの活用や身体的な表現も含めて既習の表現方法から選択し、国語科や各教科等で身に付けた力を発揮することができるよう、学びを積み重ねていく。